2017年度
事業報告書
会計報告書

ネパール　アナンダバン病院で働く元奨学生

MTC
JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目　次

１．今年度の歩み **1**
２．中長期計画における位置付け **3**
３．海外諸活動 **3**
３－１　海外派遣 3
（１）バングラデシュ　岩本直美ワーカー 3
（２）バングラデシュ　山内章子ワーカー 5
（３）タンザニア　弓野綾ワーカー 6
（４）短期 8
３－２　奨学金事業 8
３－３　協働プロジェクト（プロジェクト・りとる） 14
（１）SALT プロジェクト　カンボジア 14
（２）シロアムプロジェクト　ケニア 15
（３）学校保健教育プロジェクト　バングラデシュ 17
（４）TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト　タンザニア 17
３－４　災害救援復興支援 18
４．国内諸活動 **18**
４－１　国際保健人材育成 18
４－２　東日本大震災被災者支援 22
４－３　国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動 23
４－４　マーケティング 28
５．運営体制 **32**
５－１　第 56 回定時社員総会 32
５－２　理事会 32
５－３　委員会 33
５－４　事務局 35
６．一般会員・社員会員の現状報告 **36**
７．2017 年度の主な動き **36**
８．会計報告 **39**
貸借対照表 39
賃借対照表内訳表 40
正味財産増減計算書 41
正味財産増減計算書内訳表 44
財務諸表に対する注記 47
附属明細書 49
財産目録 50
監査報告書 52

1．今年度の歩み

＜常務理事　大友宣＞

2017年度も、会員[1]、支援者、ボランティアの皆様のあたたかいご支援、ご協力と祈りの心に支えられ、アジアやアフリカの人々と共に生きることを目指して活動を続けることができました。また、今年度をもって終了いたしました東日本大震災で被災された方々への支援も、皆様のご理解とご協力により、JOCSの海外での経験を活かして活動を展開することができました。お支えくださいました皆様すべてに心から感謝申し上げます。

2017年度は、「5ヵ年計画2013」の最後の年でした。すべての人の健康といのちがまもられる世界を目指して作成したこの計画の総括を行い、それを踏まえて新たに「5ヵ年計画2018」を定めました。

これからも、活動地の人々と共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2017年度の活動の概要を以下に記します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（1）海外諸活動

1）海外派遣

2017年度は、3名のワーカーがそれぞれの任地で以下の活動を行った。

バングラデシュでは、岩本直美ワーカー（看護師）が前年度と同様に、ラルシュ・マイメンシンで、施設の運営と組織強化に携わりながら、知的障がいのある人々と共に生きている。山内章子ワーカー（理学療法士）は、各地で理学療法技術者や現場スタッフの技術教育への取り組み、またリハビリテーションを必要としている人への理学療法を提供し共に生きている。2018年3月にはケニアの協働プロジェクト実施地に出張し、理学療法の改善に向けた活動を支援した。

タンザニアでは、弓野綾ワーカー（医師）が3年間にわたるタボラの聖アンナ・ミッション病院での活動およびタボラ大司教区での診療統計分析能力強化プロジェクトへの協力活動を終了し、帰国した。

2）奨学金事業

アジアやアフリカの保健医療従事者育成を目的とした奨学金事業では、新規受給者、継続者を合わせ、インドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアの53名の研修を支援した。

[1]会員：本報告書の中で特にことわりのない場合は、社員会員および一般会員の皆様を指します。

インドネシア、ネパールでは協力団体と元奨学生のモニタリングを行い、元奨学生たちが地域医療に貢献している様子を確認した。また、協力団体や選考基準の見直しも行った。

3）協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）（Project "LITTLE" = "Living together with the people"）

2016年度に引き続きカンボジアとケニアで事業を行っている。

カンボジアの小中学校での健康教育（SALTプロジェクト）は4年目に入った。2017年6月および10月に事務局スタッフが訪問して日々の健康教育活動をモニタリングした。

ケニアの障がいのある子どもたちの療育事業（シロアムプロジェクト）は2年目に入った。2017年5月から3週間短期専門家を派遣し、障がいのある子どもたちの生活・学習能力のアセスメントや個別指導計画への助言を行った。また前述のように山内章子ワーカーが2018年3月に出張し、理学療法の改善に向けた活動を支援した。

（2）国内諸活動

2017年度も国際保健医療協力に関心をもつ方々のために勉強会とフィールドセミナーを実施し、多くの参加者を得た。また、タンザニアへのスタディツアーを実施した。

新規支援者を増やす取り組みとして、職員が教会訪問を行ってJOCSの活動を紹介し、28名の新規支援者を得た。10月には東京でチャリティ映画会を開催し、上映前にはJOCSへの支援をお願いした。また関西では2017年5月と2018年2月に「JOCSのつどい」を開催し、既存の支援者の方々への報告に加えて、これまでJOCSの活動を知らなかった方々の理解と賛同を得るよう努力した。

タンザニアでの活動を紹介したDVDが完成し、東京事務局で支援者へのお披露目会を行った。現在はインターネットでも閲覧できる。

2011年度から皆様のご協力を得て行ってきた東日本大震災被災地での支援活動は、2017年度で終了した。

（3）運営体制

第56回定時社員総会を6月に開催し、決算が承認された。理事会を7回開催し、様々な議題に対して真摯な協議を行った。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

2017年度も、多くのボランティアの皆様がJOCSの活動を支えてくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2．中長期計画における位置付け

2017年度は5ヵ年計画2013の最終年であった。この中期計画では海外事業においては、2017年度が終わるころに一定数のワーカーが派遣先で活躍しており、奨学金事業が安定し、協働プロジェクトが発展することを目指していた。国内においては、会員・寄付者・使用済み切手寄付を増やすことと財政的な安定を目指していた。

最終年を終えて振り返ってみれば、中期計画期間中は常に一定数のワーカーが派遣されており、奨学金事業は選考ガイドラインの整備・協力団体の選定・各国のモニタリングと基礎調査による実情把握が出来た。また、協働プロジェクトでは2013年にタンザニア、2014年にカンボジア、2016年にケニアで新たな協力団体を得てプロジェクトを開始することができた。

マーケティング部の発足、キリスト教共感層へのアプローチ強化、積極的な広報及び会員獲得活動により、会員数自体は上昇には至らないものの、毎年の大幅減少の状況は改善し、会員継続率の上昇、恒常的な新規入会を得られた。使用済み切手は市中に出回っている切手の絶対数が減少している中、集まる切手の数は減ったが、新規での寄付もあり、総寄付件数はほぼ横ばいであり、関心を寄せてくださっている方がまだまだ多いことがわかった。寄付については、遺贈などがあったのも要因となり、黒字決算を達成することができた。

3．海外諸活動

海外派遣は3名、協働プロジェクトは2件、奨学金では総計53名を支援した。2017年度も各国の治安状況は改善せず、むしろ悪化する地域が増えたが、可能な範囲で活動を進めた。

[3－1] 海外派遣

バングラデシュでは、岩本ワーカーが第6期、山内ワーカーが第3期の活動を引き続き行った。2018年2月には岩本ワーカー中間レビュー、山内ワーカー終了時レビューを実施した。

弓野ワーカーは、2月に終了時レビューを実施し、3月で任期を終えて帰国した。

（1）バングラデシュ　岩本直美ワーカー　（看護師）

派遣先　：L'Arche Mymensingh　（ラルシュ・マイメンシン）
派遣期間：2016年7月～2019年7月

活動概要：知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをしている。

コアメンバーから誕生祝の花束を受け取る岩本ワーカー

1）コミュニティ5ヵ年の覚書（2016-2021）に沿い、2017年度優先事項を実施した。職務規定等につき理事及び国際ラルシュ担当者たちと検討し、明文化した。
2）次期コミュニティリーダー招聘は試行錯誤が続いている。国際ラルシュへ3年の任期でシニアアシスタント養成を目的に、適任者の派遣申請を提出したが、人材は未だ得られていない。
3）新しく稼動したコミュニティカウンシル（評議会）には経験のあるシニアアシスタントたちがそろった。しかしチームワークとコミットメント（責任感）の強化が課題である。
4）アシスタントの養成プログラムについては、海外での生活体験は充実していたが、専門分野の養成は希薄であった。これは国内外の専門家の招聘が容易ではないことにも因る。
5）障がいのあるメンバーたちの目標達成に向けた各リーダーの取り組みへの支援は十分ではなかった。深刻なアシスタント不足に陥り、メンバーたちの安全と日々のケアの対応に追われた感がある。
6）地域に暮らす障がいのあるメンバーたちの家族の支援は、彼らの母親の老齢化や他界に伴い、そのニーズはさらに深くなった。生活や暮らしの支援以上にこころのケアが求められる。
7）任期満了に伴い、理事会セクレタリー（幹事）の交代を行った。実務に長けたイスラム教徒が、キリスト者に代わり新任した。異なる宗教者間のパワーバランスに配慮した。
8）家のメンバーたちの障がい者年金は、ようやく10名につき、障がい者年金手帳を行政より取得することが出来た。県知事を通して年間3トンのお米の支給も続いている。
9）ラルシュの男性の家が2017年11月1日に建築工事を終了し、同日メンバーたちは移転を完了した。移転計画作成中のワークショップ（作業所）、女性の家およびコミュニティホール（集会所）についても、ほぼ方針が決まった。
10）第二のラルシュを開く望みがキリスト者アシスタントたちの内で強く、幾人かはその一環として、地元でデイケアプログラムを実施した。第二のラルシュの実現のためには、理事会と国際ラルシュとの共通理解が求められる。
11）「べてるの家」よりご支援を頂き、1号に続き2号目の電気自動車を購入した。複数のアシスタントが運転を習得中である。地域に暮らすメンバーたちの通所に大変役立っている。
12）課題であったパソコン作業とその管理は、米国から1年ほどの予定でラルシュに滞在しているボランティアにより担われている。
13）国内外ボランティアは少数ではあるが得られている。しかしその多くは行事の支援あるいは短期滞在である。暮らしの支援に継続的に関わってくれるボランティアがさらに望まれる。

（2）バングラデシュ　山内章子ワーカー　（理学療法士）

派遣先　：PCC（Protibondhi Community Centre：障がい者コミュニティセンター）
派遣期間：2015年6月～2018年7月
活動概要：主に理学療法技術者のトレーニングを行っている。

理学療法外来でスタッフを指導する山内ワーカー

1）PCC（障がい者コミュニティセンター、マイメンシン県）
・理学療法外来において、スタッフの技術強化を行った。基礎理学療法コース修了者のモモタース氏とアズゴール氏は、それぞれPCCのプロジェクト・スタッフとしてポジションを得た。またこの2名はJOCSの奨学金でCDD（Centre for Disability in Development）のトレーニングを受講することになった。同様に修了者のレハナ氏は、女性クラブの女性たちのセラピーを担うようになり、現在理学療法外来の日に山内より評価とスキルを実践で学んでいる。
・CPPC（Cerebral Palsy Physiotherapy Course、脳性麻痺児の理学療法コース）の4人の受講者に脳性麻痺とその理学療法の基礎を6回の予定で講義するはずだったが、受講者の理解の程度に合わせ、CPIC（Cerebral Palsy Introduction Course、脳性麻痺紹介コース）と内容を変更し、実技中心のコースとした。
・女性クラブの新ブランド「オンクール」の商品開発、新しい販売店の発掘、店舗のアドバイス、女性たちの権利の保護などを行った。

2）Kailakuri Clinic（カイラクリ・クリニック、タンガイル県）
・スタッフのシルピー氏とスケジュールが合わなかったことや、私的事情で山内ワーカーが2ヵ月日本に帰国したことなどがあり、トレーニングが思うように実施できなかったが、12月より再開した。

3）KPKS（Kalibari Protibondhi Koran Shomiti、カリバリ障がい者協会、マイメンシン県郊外）
・トレーニング対象候補のロフィクル氏（KPKS代表）の妹は結婚してKPKSを離れた。現在トレーニング対象者としてKPKSの女性スタッフが候補にあがっているが、知的障がい児のデイケアを始めたばかりのため、先送りした。
・責任者のロフィクル氏が知的障がい児と身体障がい児のケアの違いが判らないため、理学療法外来に両者が通所し、身体障がい児の理学療法に十分時間がかけられなかった事情から、知的障がい児の為のデイケアを始めた。マイメンシンでデイケアを運営するティナ氏に応援を要請。現在、週に一度のデイケアが定着している。

4）CPD（Centre for People of Disabilities、障がい者センター、ディナジプール県Dhanjuri Mission内）

・バングラデシュの治安情勢により、訪問の機会が得られなかった。
・CPD の中にあるカリタスプロジェクトで働く養護教員やディポック氏のトレーニングを計画したが、スケジュールが調整できず、かなわなかった。

（3）タンザニア　弓野綾ワーカー　（医師）

派遣先　：TAHO（Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所）
St.Ann's Mission Hospital（聖アンナ・ミッション病院）
派遣期間：2015 年 4 月～2018 年 3 月
活動概要：病院での診療と現地スタッフ育成、TAHO の診療統計分析とスーパービジョンの支援を行った。

1）　聖アンナ・ミッション病院での活動

①外来診療

・週 2 日救急診療を担当した。頻度の高い疾患はマラリア等の感染症であったが、糖尿病等の慢性疾患悪化による受診の増加が見られた。他医師からの患者紹介で見られた診療の質の問題を改善するため、頻度の高い病気の診療指針作成に取り組んだ。
・2016 年 4 月より週 1 日慢性疾患外来を開始した後、患者の増加が見られたので、2017 年 3 月より外来を週 2 日に増やした。2017 年 12 月までに 492 名が新規に登録し、慢性疾患の治療を継続した。多い疾患は高血圧、糖尿病、慢性心不全などであった。病院全体で主要な慢性疾患の年間受診件数は、2015 年は 1,986 件、2016 年は 3,092 件、2017 年は 4,667 件と 3 年で約 2,600 件増加した。
・慢性疾患外来には医師 3 名、看護師 5 名、栄養士 1 名のスタッフの参加を得た。任期終了後も継続可能な外来システムを作るため、業務マニュアルを作成し、また診察や外来の予約管理の業務の責任を各スタッフに分担して、業務習熟度を高めた。
・慢性疾患についての患者健康教育の機会を外来日毎に設け、毎月のテーマと担当者を決めてテキストを作成し、継続的に教育が行えるようにした。
・スタッフの診療能力向上のため、内科疾患のタボラで実施可能な内科疾患の治療指針のまとめと共有に取り組み、高血圧と糖尿病の診療手引きを完成させた。心不全と脳梗塞の手引きの作成も進めた。

健康教育を行う弓野ワーカー

②病棟診療

・週 2 日、救急・小児・成人病棟の回診に参加し、診療の助言を行った。

・週 4 日、朝の症例検討会に参加して診療上の助言を行い、希望する医師に対し心電図の勉強会を行った。

2）TAHO での活動

①診療統計分析への協力

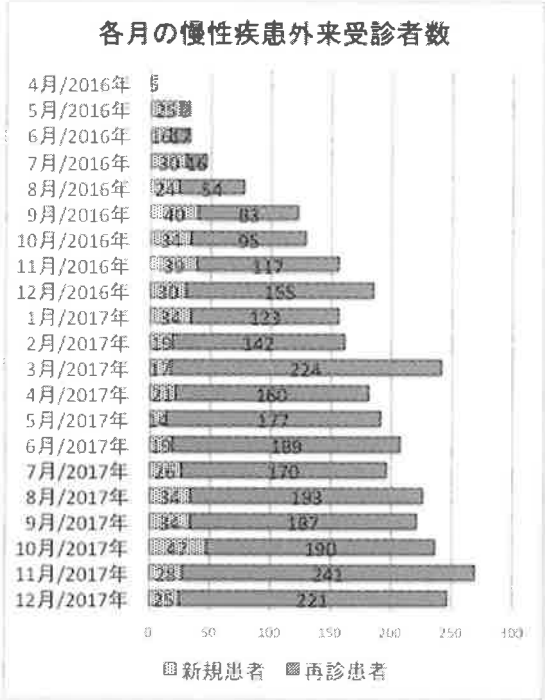
・診療統計分析能力強化プロジェクト（協働プロジェクト）が終了した後も、TAHO 主体で TAHO 傘下の保健医療施設の診療統計を作成するため、2017 年のデータ収集・入力・分析を支援した。

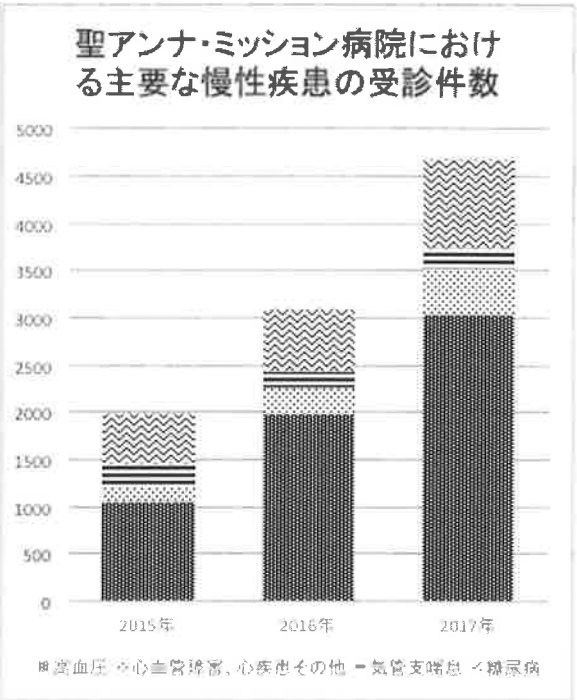
②スーパービジョン（巡回視察）への協力

・TAHO 傘下の 10 の医療施設を 2018 年 1 月に巡回し、診療内容などに関して視察と助言を行った。テーマ（栄養指導と病院機能評価）にそって招聘された専門家が同行した。スーパービジョンの準備と報告書作成へ協力した。

③保健セミナー開催の支援

・2017 年度は予算が得られなかったため、TAHO 傘下の医療施設の職員を対象にしたセミナーを開催することができなかった。





（４）短期

バングラデシュで活動中の山内ワーカーを、3 月にケニアの協働プロジェクト「シロアムプロジェクト」に派遣し、シロアムの園の理学療法士およびほかのスタッフに理学療法の指導をした。

[3－２] 奨学金事業

インドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアの奨学生 53 名を支援した。2016 年度には治安などの理由でモニタリングを延期していたネパールとインドネシアについて、2017 年度はモニタリングを実施することができた。

奨学金事業実施ガイドラインの改訂、協力団体の選定を行い、奨学金による支援をより効果的に実施できる体制が整った。

（１）インドネシア

離島や山間部および紛争の影響を受けている医療過疎地域で、既に基礎的な研修を終えた看護師がレベルアップまたは専門的な内容の研修を受けるための支援を行った。また、政府から病院としての認定を受けるためには、病院に会計士資格を持ったスタッフを配置することが必要になっているため、その研修の支援も行った。

2017 年 10 月に現地を訪問し、インドネシア国内の保健医療制度や状況と課題、保健医療に関する教育制度に関する情報収集を行った。また、協力団体と協議を行い、地域の保健医療状況、元奨学生の現況、人的ニーズおよび今後の奨学金申請の計画についても情報収集を行った。

（２）ネパール

山間部の医療へのアクセスの難しい地域にある保健医療施設で、既に基礎的な分野での研修を終え、看護・助産や臨床検査、理学療法などの分野で准看護・助産師または助手として働いている人たちに対し、レベルアップまたは専門的な内容の研修を受けるための支援を行った。また、専門医の資格取得を希望する人に対する支援も行った。

2017 年 11 月に現地を訪問し、ネパール国内の保健医療制度や状況と課題、保健医療に関する教育制度に関する情報収集を行った。また、協力団体と協議を行い、地域の保健医療状況、元奨学生の現況、人的ニーズおよび今後の奨学金申請の計画についても情報収集を行った。

（３）バングラデシュ

2016年度に採用したディナジプール県のSt. Vincent Hospital所属のシスター2名は、看護師として病院に勤務しながら、看護学士の学びを順調に続け、2018 年 7 月に卒業見

込みである。

2017年度は新規奨学生として3名の支援を決定した。乾眞理子元ワーカー（医師）の派遣先であるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（通称カイラクリ・クリニック）から初めて1名の応募があり、採用した。医師不在の同クリニックのスタッフが、2018年1月からパラメディック技術を学ぶ3年間のコースに入学し、働きながら学びを続けている。他に山内ワーカーの所属するPCC（障がい者コミュニティセンター）の理学療法技術者2名が、NGOが運営する1カ月の短期コースで理学療法の技術訓練を受けた。

（4）ウガンダ

2016年度に採用したUPMB（ウガンダ・プロテスタント医療連盟）傘下の4名と、リーチアウトの1名は全員、2017年度内に学びを終了した。また2016年度に学費書類や報告書等の未提出のため、支援を取り消したチオコ病院所属の医療スタッフ3名は、モニタリング調査の結果、郵便物の紛失等に起因する未提出であったことが判明したため、支給停止処分を取り消し、支援を再開した。うち2名が2017年度中に研修を修了し、1名は学びを継続している。

2017年度の新規奨学生として、UPMB傘下でウガンダ北西部、南西部に位置する僻地医療を担う4つの施設より4名を採用した。2名が助産、2名が看護のコースで学びを開始した。

（5）タンザニア

研修を受けず、または基本的な短期研修を受けただけで、資格を持たずに保健医療施設で助手として働いているスタッフが多い。保健医療施設の中には、このような助手しかいない施設もある。そのため、看護・助産、臨床検査、医学などの分野で基礎的な資格を取得することを希望する人たちへの支援を行っている。比較的規模の大きい医療施設に対しては、レベルアップや麻酔などの専門分野の研修を受けるための支援を行っている。

スタディツアーでタンザニアを訪問した際、元奨学生がツアーの参加者に自分の働く病棟や仕事の内容について自信をもって説明する様子を見ることができた。JOCSの奨学金がタボラの保健医療人材を増やすためにいかに重要な役割を果たしているか、参加者に説明してくれる場面もあり、参加者もJOCSの奨学金事業の意義を感じてくれた様子であった。

＊GKST：Geredja Kristen Sulawesi Tengah（中部スラウェシキリスト教会）

＊GMIM：Geredja Masehi Indjili Minahasa（ミナハサ福音教会）

＊ICAHS：Indonesia Christian Association for Health Service （インドネシア・キリスト教保健サービス協会）

＊HDCS：Human Development and Community Services （ネパールのキリスト教系 NGO）

＊TLMN：The Leprosy Mission Nepal （ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際 NGO）

＊UMN ：United Mission to Nepal （ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO）

＊PCC ：Protibondhi Community Centre（障がい者コミュニティセンター）

＊UPMB：Uganda Protestant Medical Bureau （ウガンダ・プロテスタント医療連盟）

＊TAHO：Tabora Archdiocesan Health Office（タボラ大司教区保健事務所）

2017年度奨学生一覧

インドネシア

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
会計スタッフ	25	女	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年6月～2020年5月
看護師、治療室主任	28	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	看護学修士	2017年9月～2019年8月
看護師長	44	女	ICAHS Emmanuel Hospital Klampok	看護学修士	2017年8月～2019年7月
助産師長	27	女	ICAHS Permata Clinic	看護学	2015年9月～2017年8月
看護師長	44	女	ICAHS UKI Hospital	看護学修士	2015年7月～2017年6月

ネパール

准看護・助産師	34	女	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年10月～2017年9月
准看護・助産師	31	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	看護学	2014年10月～2017年9月
診療放射線技師助手	44	男	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	放射線診断学	2016年10月～2019年10月
事務・会計担当	29	男	HDCS Lamjung District Community Hospital	ヘルスケアマネジメント修士	2016年2月～2018年1月
看護師・助産専門技能者	32	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2016年10月～2019年9月
理学療法士助手	30	女	The LMN Anandaban Hospital	理学療法	2014年10月～2017年9月
看護師	28	女	The LMN Anandaban Hospital	看護学	2016年10月～2019年9月
医師	40	男	The LMN Anandaban Hospital	医学	2017年4月～2020年3月
上級保健衛生士	48	男	UMN Hospital Tansen	公衆衛生	2014年9月～2017年8月
准看護・助産師	46	女	UMN Hospital Tansen	看護学	2014年10月～2017年9月
臨床検査技師助手	28	男	UMN Hospital Tansen	臨床検査	2016年10月～2019年9月
准看護・助産師	39	女	UMN Hospital Tansen	看護学	2016年10月～2019年9月

バングラデシュ

パラメディック	25	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2018年1月～2020年12月
フィールドオフィサー	36	男	PCC	障がい者地域支援員	2018年3月～2018年3月
フィールドオフィサー	35	女	PCC	障がい者地域支援員	2018年3月～2018年3月
看護師	34	女	St.Vincent Hospital	看護学	2017年7月～2019年7月
看護師	32	女	St.Vincent Hospital	看護学	2017年7月～2019年7月

2017年度奨学生一覧

ウガンダ

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
抗レトロウイルス療法責任者	33	女	Reach Out Mbuya HIV/AIDS Initiative	公衆衛生	2015年8月～2017年11月
看護助手	26	女	UPMB Amuca SDA HC III	助産学	2014年10月～2017年10月
准助産師	27	女	UPMB Amuca SDA Health Centre Ⅲ	助産学	2016年4月～2017年10月
准看護師	29	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2016年5月～2017年11月
看護助手	31	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2017年11月～2020年5月
検査助手	32	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	臨床検査	2015年8月～2018年7月
准看護師	25	男	UPMB Goli Health Centre/ Nobbi Diocese	看護学	2016年5月～2017年11月
清掃員	31	女	UPMB Goli Health Centre	看護学	2017年11月～2020年5月
准看護師	29	男	UPMB Kanamba Health Centre Ⅲ/ South Rwenzori Diocese	看護学	2016年5月～2017年11月
診療所責任者	32	男	UPMB Kei Health Centre, Here is life	臨床医学・公衆衛生	2012年9月～2018年6月
検査助手	29	男	UPMB Kiwoko Hospital	看護学	2015年8月～2018年5月
看護助手	31	男	UPMB Kumi Hospital	看護学	2014年11月～2017年5月
薬剤師	31	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	薬学	2014年8月～2018年2月
准看護師	35	男	UPMB South Rwenzori Diocese	臨床医学・公衆衛生	2015年5月～2018年5月
准看護師	29	男	UPMB South Rwenzoi Diocese	看護学	2015年5月～2017年5月
准看護師	29	女	UPMB South Rwenzori Diocese	助産学	2017年5月～2018年11月
准看護師	33	女	UPMB Wii Anaka HC/II, Diocese of Northern Uganda	看護学	2017年5月～2018年11月

タンザニア

医療助手	22	男	TAHO Igoko Dispensary	臨床検査	2015年9月～2017年9月
医療助手	24	男	TAHO Kipalapala Dispensary	臨床検査	2017年4月～2019年4月
看護師	49	女	TAHO Ndala Hospital	看護学	2014年8月～2017年9月
医療助手	29	女	TAHO Ndala Hospital	X線技師線技師	2015年9月～2018年9月
シスター、病院管理責任者	40	女	TAHO Ndala Hospital	病院運営	2017年10月～2022年10月
医師補	33	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2012年8月～2017年8月
医師補	31	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2014年10月～2019年10月
受付係	24	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	X線技師	2014年10月～2017年10月

看護助手	28	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	薬学	2015年11月～2017年10月
清掃員	21	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2016年6月～2019年9月
看護主任	35	女	TAHO St. Ann's Mission Hospital	麻酔	2018年1月～2019年1月
医療助手	23	男	TAHO St. John Paul II Hosopital	看護学	2015年11月～2018年11月
医療助手	23	男	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2016年10月～2019年10月
医療助手	23	男	TAHO St.John Paul II Hospital	薬学	2017年9月～2018年8月

［３－３］ 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）(Project "LITTLE" = "Living together with the People")

カンボジアのSALTプロジェクトとケニアのシロアムプロジェクトを引き続き実施した。タンザニアの診療統計分析能力強化プロジェクトについてはプロジェクト終了後 1 年を経過した 2018 年 3 月に活動の定着の状況を調査した。

（1）SALT（Sokkapheap Anamai La·or sumrup samai Thmey＝次世代のための健康と衛生）プロジェクト

対象国	：カンボジア
活動地域	：バッタンバン州
プロジェクト期間	：2014 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日（5 年間）
協力団体	：バッタンバン司教区ヘルスセンター
受益者	：バッタンバン州内の 16 小学校および 8 中学校の高学年生
プロジェクト目標	：小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

進捗状況：

プロジェクトは 2017 年 10 月から 4 年目の活動に入った。2017 年 10 月のモニタリング調査で、第 3 年次までの成果を確認した。事業管理を担ってきたシスター・チャンタナの後任が配置されておらず、バッタンバン司教区ヘルスセンター責任者も不在だったため、全体を俯瞰するレビューはできなかったが、既存資料とカンボジア人スタッフ 2 名からのヒアリングをもとに活動実績を確認した。2 人のカンボジア人スタッフがすでに育っており、日々の健康教育活動は問題なく進められている。プロジェクト全体を見渡し、スタッフの指導・助言や、事業管理の舵取りができる人材が必要と判断し、バッタンバン司教区に申し入れを行った。会計面では、第 3 年次は、当初予算の 58%の執行率にとどまった。

【小学校　健康教育】

6 年生向けの健康教育では、対象校は年を追うごとに増え、3 年次までに 11 校となり、年間 300 名以上の小学生に健康教育を実施できるようになった。1～2 年次は学期の終わりに近づくにつれて出席率が低減したが、3 年次は 11 校中 10 校で通年の出席数に大きな変化がなく、大半の生徒が最後まで授業に参加した（例外として 1 校のみ 27 名から 10 名に減少した）。健康教育の大切さが教師・生徒に浸透してきていると考えられる。

健康教育	（平均出席生徒数）		
小学校名	1年次	2年次	3年次
1) Phnomkpors	30		
2) Plovkat		18	
3) Tahen	50	49	48
4) Omdongjenh	50	48	37
5) Kdong	19	23	10
6) Balath	27	32	24
7) Bakrotesh		17	23
8) Ekphnom		25	24
9) Oukomboth		34	41
10) Dombokbun			21
11) Chormnoum			42
12) Roka			36
13) Samaki			30
平均出席数の合計	175	246	336
学校数	5校	8校	11校

【中学校　思春期教育】

対象校が当初の 1 校→5 校→4 校→(第 4 年次 5 校予定)と拡大し、受益生徒数も伸びて年間 350 名前後に達している。当初計画では 2 年次から 8 校での展開を目指していたが、実際は 5 校にとどまった。これは 1 学年の生徒数が 100 名を超える学校が複数含まれ、2～3 学級に分けて授業を実施しているためであり、学級数（9～10 学級）でみれば受益範囲は当初計画した域に達していると考えられる。生徒の出席率は比較的良く、学期末にむけ漸減する程度にとどまっている。思春期教育は内容的に「教えづらい」と感じている教師が多く、SALT スタッフの授業が高く評価されていることを確認した。

思春期教育	（平均出席生徒数）		
中学校名	1年次	2年次	3年次
1) Wat Tahen	31	46	60
2) Donbosco Orndongjenh		34	63
3) Sdav		96	70
4) Kdol Dunteav		138	149
5) Netyong		42	
平均出席数の合計	31	356	341
学校数	1校（1学級）	5校（9学級）	4校（10学級）

（2）シロアムプロジェクト

対象国　：ケニア

活動地域　：キアンブ地方行政区（County）ンデンデル地区

プロジェクト期間　：2016 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日（5 年間）

協力団体　：コイノニアミニストリー　シロアムの園

受益者　：シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい（重複障がいが多い）のある子どもおよびその家族

プロジェクト目標　：シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

進捗状況：

障がいのある子どもたちやその家族をありのままに受け入れ、包括的・全人的なケアを行うことを目指すシロアムの園と協働を始めてから丸2年が過ぎた。第2年次（2017年4月～2018年3月）は、特別支援教育専門家の原田真帆氏を短期専門家として2017年5月の約3週間派遣し、障がいのある子どもたちの生活・学習能力のアセスメントや個別指導計画への助言を行った。それぞれの子どもにあった接し方、療育活動の課題を示し、改善策を話し合い、スタッフの行動に好影響を与えた。また人材育成の一環で、7月にはシロアムの園のスタッフの作業療法士バシリサ・ワマルワ氏が研修のために来日した。第1年次に続き、バングラデシュで活動中の山内章子ワーカーが2018年3月に2度目の訪問を行い、理学療法の改善に向けた活動を行った。

シロアムの園に登録する障がいのある子ども数は72名（2018年3月末現在）と、確実に増えている。スタッフ13名が一丸となって、子ども達またその母親たちの身体と心のケアを行う体制が整った。グループ療法はイーグルクラス（軽度障がい）とダヴクラス（重度心身障がい）に加え、その中間レベルのスワロウクラスが2018年1月に導入された。

JOCSがシロアムの園との協働プロジェクトを開始してから、すでに5名の子どもが天に召された。子どもたちと過ごす一日が決して「当たり前」のことではない、という実感が関わる者の心に深く浸透している。そうした実感をもってスタッフ達が一人ひとりの子どもに関わり、友達と過ごし、母子で向き合う時間を作り上げる働きの様子を、2017年度は国際保健医療勉強会でも取り上げ、多くの方と分かち合った（国際保健医療勉強会の詳細は後述18頁）。

理学療法士の短期派遣およびプロジェクト支援のため、動画を活用したクラウドファンディング「Ready For」での寄付型ファンドレイジングを以下のとおり行い、活動に支出した。

募集期間：2017年9月1日～9月30日

寄付総額：564,000円

支出総額：564,000円

単位：円

支出内訳	支出
山内章子ワーカー派遣費	325,702
シロアムプロジェクトモニタリング経費	134,748
Ready For 手数料	103,550
合　　計	564,000

（3）学校保健教育プロジェクト（事後評価）

対象国　：バングラデシュ
対象地域　：ダッカ
プロジェクト期間　：2010年4月～2015年3月（5年間）
2015年4月～2016年3月（延長フェーズ）
協力団体　：BDP（Basic Development Partners）
対象者　：BDPの運営する小学校に通う生徒（男女）約3,000人、
同校を卒業した高校生女子約100人
プロジェクト目標　：対象の子どもたちが健康に関する正しい知識をもち、適切に衛生行動がとれるようになる。

進捗状況：

事後評価として現地を訪問し、学校保健教育の現在の実施状況と他地域のBDP学校への保健教育の拡がりを確認する予定だったが、治安状況の悪化等により今年度は実施できなかった。（今後の実施時期は未定）

（4）TAHO診療統計分析能力強化プロジェクト（事後評価）

対象国　：タンザニア
対象地域　：タボラ州　タボラ大司教区
プロジェクト期間　：2013年9月～2016年8月（3年間）
2016年9月～2017年3月31日（延長フェーズ）
協力団体　：TAHO（Tabora Archdiocese Health Office：タボラ大司教区保健事務所）
対象者　：TAHOとその傘下の10の保健医療施設（病院や診療所など）
プロジェクト目標　：タボラ大司教区保健事務所が、傘下の10の保健医療施設の医療データを収集、分析、フィードバックできるようになる。

進捗状況：

2018年2月から3月にかけてタンザニア・タボラを訪問し、フォローアップを行った。TAHOからの要望を受けて新たにJOCSで改訂した記入用フォームと入力用のコンピュータープログラムが問題なく使用できていることを確認した。また、記入用フォームを改訂したことにより、各保健医療施設の誤記や記入漏れが少なくなったという報告を受け、実際に各保健医療施設が提出した記入フォームでそのことが確認できた。また、TAHOが年次報告書作成に係る作業のほとんどを独自に行い、2017年の年次報告書を完成できたことを確認した。

完成した年次報告書の活用について、これまでにTAHOからカリウアヘルスセンター内にHIV治療のための新病棟建設のための資金獲得や地方政府保健省への陳情、患者への啓発に活用されているとの報告を受けていたが、今回新たに、TAHO傘下のムワンズ

ギ診療所で ARV（抗レトロウイルス薬）提供を行う活動のための資金を獲得するためなどに活用することができたとの報告を受けた。

[３－４]災害救援復興支援

海外での災害発生による支援要請がなかったため、2017 年度は実施実績はない。

４．国内諸活動

将来 JOCS のワーカーとして派遣される人材の発掘を目指してスタディーツアー、勉強会などを実施した結果、多くの保健医療従事者である参加者にワーカーに興味を持ってもらうことができた。東日本大震災被災者支援は 2017 年度末をもって終了となった。マーケティングにおいては、支援者を増やすことを目指して、映画会の上映回数を増やしたり、教会訪問を実施したりした。また、広報用にタンザニアで実施中の事業を題材にした動画「アサンテ サーナ　タンザニアにまかれた種」を作成した。

[４－１]　国際保健人材育成

将来国際保健医療協力の分野で活躍したいと思っている学生及び現職の保健医療従事者に参加者の的を絞って、国際保健医療勉強会を 4 回、山谷でのフィールドセミナー、タンザニアでのスタディーツアーを実施した。

（１）国際保健医療勉強会

JOCS のワーカー志願者を念頭に、将来的に国際保健医療の分野で働くことを希望する人に学ぶ機会を提供することを目的として、2017 年度も計 4 回の勉強会を開催した。第 1～3 回目までは「ケニア・シロアムプロジェクト」を取り上げた事例研究シリーズとした。第 1 回はシロアムの園の公文和子代表、作業療法士バシリサ氏の来日機会に東京および関西事務局で開催したが、それ以外は東京のみで実施した。勉強会終了後は、ワーカー志願者に対して森田隆事務局長が派遣希望者説明会（旧称「キャリア相談会」、30 分程度）も行った。

第 1 回　＜事例研究＞シロアム協働プロジェクト
～ケニアの障がい児を取り巻く状況と作業療法士の活動

【東京会場】
日　時：2017 年 7 月 21 日（金）18:15～20:30

参加者：合計 16 名（女性 11 名、男性 5 名）

【理学／作業療法士、言語聴覚士、臨床発達心理士 6 名、団体職員 4 名、看護師 2 名、牧師 1 名、会社員 1 名、高校生 1 名、フリー1 名】
【JOCS 会員 2 名　非会員 14 名】

【大阪会場】

日　時：2017 年 7 月 27 日（木）18:15～20:30

参加者：合計 9 名（女性 6 名、男性 3 名）

【医師 2 名、言語聴覚士 1 名、看護師 2 名、牧師 1 名、大学院生 1 名、無職 1 名、不明 1 名】
【JOCS 会員 5 名　非会員 4 名】

講　師：シロアムの園　公文和子代表（医師）、
バシリサ・ナフラ・ワマルワ氏（作業療法士）

内　容：公文氏よりシロアムの園の設立経緯として、政府、援助機関の支援からこぼれおちる人々の存在に届く必要と、高度経済成長期にあるケニア社会で誰を大切にし、どういう社会を作りたいのか問いかける取り組みとして、また神の業が現れる場としてのシロアムの園の意義の紹介があった。その後、作業療法士バシリサ氏がケニアにおける作業療法士・理学療法士の育成環境や技術レベル・取り組み姿勢（制圧的な姿勢、画一的なセラピー、マッサージ的な技術レベル等）の中で自身が感じた違和感、シロアムに来てから経験した様々な変化、ある重度心身障がい児のライフストーリーとその母親と共に歩んだスタッフたちの思いを語った（公文氏が逐次通訳）。質疑応答の時間を 1 時間強とり、参加者からの質問、意見交換を十分に行った。

第 2 回　＜事例研究＞シロアム協働プロジェクト～ケニアの障がい児への療育支援

日　時：2017 年 10 月 13 日（金）18:30～20:30

参加者：合計 8 名（女性 6 名、男性 2 名）

【理学療法士 3 名（山内ワーカー含）、言語聴覚士 1 名、臨床心理士 1 名、大学生 2 名、フリー1 名】
【JOCS 会員 2 名　非会員 6 名】

講　師：原田真帆氏（短期専門家）2017 年 5 月に 3 週間現地派遣

内　容：原田氏は、事前に依頼した発表のポイントを踏まえ、準備段階から現地入り時点の活動の範囲や方法をどう見定め、実際の活動をどのように進めたかを盛り込んで、動画、写真も活用して、実施した活動をわかりやすく紹介した。学習障がい児を中心とする療育支援の具体例を紹介し、専門家として一定期間内に期待された成果を出す工夫や現地スタッフ育成、技術指導の進め方、留意点（動画の有効利用、やる気の引き出し方など）などを説明した。また一人ひとりの子どもに愛情をもって向き合うことの大切さを語った。質疑応答では、子どもたちを公立学校への就学につ

なげる必要（要否）や、多言語（英語、スワヒリ語、部族語）での療育について、ケニア社会の現状を交えて、参加者間で意見交換がなされた。

第３回：＜事例研究＞障がいのある人を取り囲む環境と理学療法士の育成について
～バングラデシュとケニアの事例より～
日　時：2018 年 1 月 19 日（金）18:30～20:30
参加者：合計 12 名（女性８名、男性４名）

【看護師３名、理学療法士２名、言語聴覚士１名、作業療法士１名、
団体職員２名、会社員１名、フリー1 名、不明１名】
【JOCS 会員４名　非会員８名】

講　師：山内章子ワーカー
内　容：バングラデシュとケニア両国の基本的な社会構造を概観した上で、理学療法士育成の観点から、バングラデシュでの活動期ごとに「第１期：理学療法の環境整備→第２期：座学（授業）の導入→第３期：当事者の社会参加を含むリハビリテーションへ」と活動が展開・拡大された経緯が紹介された。両国の比較では、ともに記憶偏重型の教育システムで育った人材の応用力の低さが共通の課題として指摘され、身体構造・機能や動かし方の基礎等を含め、彼らが理解できる伝え方が例示された。またケニアでは「理学療法＝マッサージ」の誤解を解いていくことも課題であり、いずれせよコミュニケーションの工夫が大切だと伝えられた。講義に続き、バングラデシュ、ケニアの理学療法士育成制度や育成環境、障がい者支援制度、宗教上の配慮等の質疑応答や意見交換が行われた。

第４回：国際協力とプロジェクトマネジメント
日　時：2018 年 3 月 9 日（金）18:30～20:30
参加者：合計２名（女性１名、男性１名）

【学校看護師１名、フリー1 名】
【JOCS 会員１名　非会員１名（当日入会）】

講　師：森田隆（JOCS 事務局長）
内　容：JOCS の基本方針と事業概要を紹介した上で、部外者として開発に携わるにあたり念頭に置くべき、開発ステージ（タイミング）と介入内容の相関性、技術移転とサービスデリバリーの違い、プロジェクトの概念とマネジメント手法・運営上の留意点などを説明した。少人数だったのと、２名とも前回の山内ワーカーの勉強会のリピーターだったため、前回の内容も絡めつつ、持続的な人材育成の在り方などにつき、質疑応答、意見交換を行った。

（２）国際保健医療協力フィールドセミナー

JOCS ワーカーを希望する人に対し、国内をフィールドとして、人々とともに生きる姿

勢について学ぶ機会を提供することを目的として国際保健医療協力フィールドセミナーを実施した。

日　時：2017年10月4日（水）9:30-18:00
場　所：山谷地域（台東区清川・日本堤・東浅草周辺）
テーマ：山谷で人々とともに生きる姿勢を学ぶ
目　的：将来的にJOCSのワーカーを希望する人に対し、国内をフィールドとして、草の根の人々とともに生きる姿勢について学ぶ機会を提供する
参加者：1名（看護師／非会員／女性）
プログラム概要：

1）山谷周辺巡り（江戸の玄関口・宿場町周辺域史跡、小塚原刑場跡（延命寺）、小塚原回向院等を見学）
2）山谷地域の移り変わり、暮らす人々、山友会の活動概要の説明（山友会・油井和徳理事）
3）山友クリニック診療視察（聖路加国際病院副院長　石松伸一医師）
4）山友会アウトリーチ参加（隅田川河川敷での配食、テント巡回）
5）山谷の在宅ホスピスから学ぶ“ともに生きる”とは（きぼうのいえ中川竜施設長/看護師）
6）JOCSの活動紹介と学びの分かち合い

成果・評価：過去5年間にわたり横浜・寿地区でフィールドセミナーを実施してきたことを踏まえ、2017度は新たな試みとして、山谷で日帰りセミナーを実施した。人材育成の趣旨にそって、保健医療従事者に絞り、定員5名で広く募集をかけたが、結果的に1名のみの参加となった。7～9月には学生や市民団体が企画するスタディツアーが山谷で多数企画されており、「山谷」で10月の平日にセミナーを開催する際の人集めの難しさを実感した。次年度への教訓とする。

プログラム面では、医食住の支援とともに居場所づくりや人間関係の中で傷ついた自尊感情の回復を支える活動を長年山谷で担ってきた「山友会」、また病を抱え、行き場のない方々の終の棲家（在宅ホスピスケア施設）として活動する「きぼうのいえ」の関係者から、“ともに生きる”リアルな活動経験に基づく分かち合いがあり、参加者は多くの気づきと今後への示唆を得た。参加者とのつながりを今後も大切にしていく。

（3）スタディツアー

将来、国際保健医療協力の分野で働くことを希望する保健医療従事者や学生を対象にタンザニア・タボラ州へのスタディツアーを実施した。

日時　　：2017年9月9日（土）~17日（日）
訪問場所：タンザニア・タボラ州　タボラ大司教区
テーマ　：タボラ州の病院で保健医療事情を学ぶ旅
参加者　：11名
【医師3名、大学生（看護）3名、看護師2名、大学講師（看護）1名、大学生（医学部）1名、保健師1名】
内容　　：将来、国際保健医療協力の分野で働くことを希望する保健医療従事者や学生を対象に、タンザニア・タボラ州へのスタディツアーを実施した。
現地では、弓野綾ワーカーが活動する聖アンナ・ミッション病院を訪問し、視察や活動体験を行った。加えて、州立病院の視察、協力団体であるタボラ大司教区保健事務所傘下のイゴコ診療所の視察や住民との意見交換なども行った。ツアーの最終日にはJOCSの元奨学生や聖アンナ・ミッション病院スタッフとの交流会も実施した。
ツアーを通じて参加者の多くが国際保健医療協力分野への興味・関心を高め、この分野で働きたいという希望を強めることができた。

[4－2]東日本大震災被災者支援

JOCSでは2011年の東日本大震災発生の時から地元の団体と協力して、看護師の派遣などを行ってきた。支援最終年となる2017年度には岩手県釜石市と福島県で活動を実施した。

（1）岩手県釜石市（協力先：特定非営利活動法人カリタス釜石）

岩手県釜石市に看護師や保健師からなる看護チームを派遣し、カリタス釜石が実施するお茶っこサロン（仮設住宅集会所などで開かれている被災者の交流の場）への協力や訪問ケア活動（傾聴や健康相談など）を行った。

2016年度からは派遣チームの規模を縮小して訪問回数を増やしており、2017年度は4月、6月、9月、11月、12月に約1週間ずつ活動を実施し、のべ17名が活動に参加した。11月にはJOCS事務局長と担当職員が看護チームの活動に併せて釜石市を訪問し、終了のあいさつを行った。

（2）福島県内児童養護施設（協力先：特定非営利活動法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会（略称：ICA福子））

ICA福子は、福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うために活動している。JOCSは、福島市の「福島愛育園」での個人被ばく線量測定サービスのルミネスバッジ着用による外部被ばく量の実態把握と記録を支援した。年齢が低い子どもはバッジの着用が難しいので子どもと一緒に生活する職員が着用し、子どもの外部被ばく量を推測している。空間線量は

放射性物質の自然減衰と除染作業により低下しているので、バッジ測定値は低下してきた。

職員へのアンケート及び聞き取り調査の結果から、測定結果を知ることが安心につながっていること、将来のために結果を保存していることを確認した。

（3）被災者支援会計報告

2017年度末までに使用した金額の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

活動地	2011年度～2016年度	2017年度	合計
宮城県仙台市	2,774,360	0	2,774,360
岩手県釜石市	9,835,904	839,623	10,675,527
福島県いわき市	2,156,045	0	2,156,045
福島県内児童養護施設	7,361,745	526,608	7,888,353
その他	357,820	0	357,820
合　計	22,485,874	1,366,231	23,852,105

2015年度までにいただいた東日本大震災被災者支援指定寄付は23,264,147円である。不足分の587,958円は、災害救援復興資金から充当した。

[4－3]国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動

JOCSの活動地である世界各地の困難な状況を知ってもらい、国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会となるような様々な活動を行った。

（1）使用済み切手運動

使用済み切手の寄付については、団体、個人合わせて18,745件、寄付総量は、約9,800キログラムであった。また、新宿区の2つの活動・交流施設にて、使用済み切手寄付運動が新たなボランティア活動として採り入れられた。そのほか、使用済み切手運動広報DVDの貸し出し、使用済み切手運動啓発ポスター、使用済み切手回収ボックスの送付依頼も数件寄せられた。

事務局で切手を整理するボランティアの募集を、キリスト教雑誌2誌、会報誌「みんなで生きる」、ホームページにて行った。その結果、新規参加者が8名得られた。また、中学生、大学生のボランティア体験の受け入れを行った。

・書き損じハガキキャンペーンの実施

書き損じハガキキャンペーンのチラシを、日本国内の教会向けDMサービスを用いて約8,000教会に配布した。また、ホームページ、使用済み切手寄付者への受領書を通じて広報した。キャンペーン期間は、12月~1月の2ヵ月間であり、目標の10,000枚

を大きく上回る約 20,100 枚の寄付があった。

・着払いキャンペーンの実施

2017 年 4 月 1 日～9 月 30 日の半年間、送付合計が 5 キログラム以上の使用済み切手、外国コイン･紙幣、書き損じハガキをゆうパックで送付していただいた場合に限り、送料を JOCS が負担した。

・各地のスタンプショウへの出展

スタンプショウ 2017： 2017 年 4 月 29 日～5 月 1 日（都立産業貿易センター台東館）

スタンプショウヒロシマ：2017 年 6 月 10 日～11 日(広島県立広島産業会館)

スタンプショウ・こうち：2017 年 10 月 21 日～22 日(イオンモール高知)

（2）地区 JOCS 活動支援

仙台、足利、町田、京都、大阪、神戸、芦屋、四国高知　（播州、岡山、大曲）

2017 年度中に行われた地区 JOCS の主な活動は、以下のとおり。

仙台 JOCS		参加者数
毎月第 2 土曜日	使用済み切手整理作業「きってきっぺ」 （仙台市市民活動サポートセンター）	107 名
9/18	せんだい地球フェスタに出展（仙台国際センター展示棟）	-
足利 JOCS		
12/9	足利市民クリスマス（足利市民プラザ小ホール）	200 名
町田 JOCS		
毎月第 3 水曜日	使用済み切手整理作業 （メディカルホームグラニー玉川学園）	-
12/20	クリスマス茶話会	10 名
京都 JOCS		
4/8	第 13 回チャリティウォーカソン（京都鴨川河川敷） ※悪天候のため中止	-
7/28	第 39 回チャリティーコンサート(京都府民ホールアルティ)	314 名
大阪 JOCS		
7/7	大阪 JOCS カフェ　ゲスト：船戸正久医師 （大阪聖パウロ教会）	32 名
12/16	クリスマスチャリティーコンサート：土橋薫氏によるパイプオルガンコンサート（大阪聖パウロ教会）	91 名

神戸 JOCS		
11/18	船戸正久医師講演会（兵庫松本通教会）	33 名
芦屋 JOCS		
6/18	畑野研太郎 JOCS 会長講演会（芦屋聖マルコ教会）	105 名
四国高知 JOCS		
11/26	植松功 JOCS 理事講演会（高知教会）	37 名

（3）関西バザー委員会

関西地区のボランティアによる毎年恒例の関西 JOCS バザーは、23 回目を迎え、2017 年 5 月 13 日（土）に大阪聖パウロ教会を借用して開催した。2017 年度は関西地区活動委員会の彼谷廣子委員をバザー委員長に、9 名のバザー委員と共に 4 回のバザー委員会を開き、実施した。2016 年度同様延べ 100 名以上のボランティアの方々の協力のおかげで、バザー当日は約 380 名の入場者があり、売上から 1,013,653 円を JOCS へ寄付した。使用済み切手も約 30 キログラム集まった。

（4）講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。問い合わせのあった以下の諸団体（21 団体）に講師を派遣した。

派遣時期	派遣場所
5 月	明治学院高等学校 女子学院中学校 青山学院初等部宗教プロジェクト 大阪保育専門学校 日本キリスト教会徳島教会
6 月	大阪天神橋ライオンズクラブ
7 月	明治学院中学校、明治学院東村山高等学校
9 月	東京第一友の会
10 月	日本キリスト教団堺川尻教会
11 月	聖隷クリストファー大学 恵泉女学園中学・高等学校 マロニエ医療福祉専門学校 千葉英和高等学校
12 月	戸山教会付属戸山幼稚園 盛岡スコーレ高等学校 マロニエ医療福祉専門学校（2 回）

2018年1月	捜真バプテスト教会 土浦めぐみ教会付属マナ愛児園 中落合地域交流館
2月	信濃町シニア活動館 成増高等看護学校（3回）
3月	成増高等看護学校

（5）事務局見学受け入れ

JOCSの活動内容や、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れを行っている。2017年度は、学校や企業など、計9団体の訪問があった。

＜東京事務局＞　（4団体21名）

アレセイア湘南高等学校、恵泉女学園中学・高等学校、香蘭女学校、
婦人国際平和自由連盟

＜関西事務局＞　（5団体31名）

大阪西ロータアクトクラブ、ECC社会貢献センター、大阪産業大学、
株式会社ナルックス柏原、ECC国際交流センター

（6）JOCSのつどい（関西）

・関西JOCSのつどい2017

「タンザニアで出会った涙と笑い－『みんなで生きる』を考える」

日時　：2017年5月20日（日）午後2時～5時（開場午後1時半～）
場所　：日本キリスト改革派　神港教会　礼拝堂及び集会室
来場者：137名
内容　：弓野綾タンザニア派遣ワーカー報告会
　　関西学院聖歌隊コンサート
成果　：当日3名の新規入会者と、一般会員から社員会員になってくださった方が1名あった。弓野ワーカーの話はとてもわかりやすく、来場者にワーカーの活動を理解していただけた。関西学院聖歌隊もJOCSの主旨をよく理解して下さり、選曲も素晴らしく、最後に「みんなで生きるために」を皆で合唱できたのは大変感動的だった。茶話会にも多くの方が残ってくださり、良い交流の機会を持つことができた。

・関西JOCSのつどい2018

「苦しんでいる人を、放ってはおけない－マザー・テレサに学ぶ奉仕の心」

日時　：2018年2月24日（土）午後2時～（開場午後1時半～）
場所　：カトリックセンター　サクラファミリア
来場者：310名
内容　：カトリック宇部教会司祭　片柳弘史師講演会
植松功氏（JOCS理事）によるテゼの歌と祈りのひととき
成果　：当日 11 名の新規入会希望者があった。また、募金協力、使用済み切手協力、イベント協力への希望者が10名あった。来場者も想定数を100名以上超える310名となった。心に響く片柳神父のお話と、植松理事リードによるテゼの歌と祈りのひととき と相まって、素晴らしい集いとなった。茶話会にも多くの方が参加してくださった。

（7）チャリティ映画会

日程　：2017年10月20日（金）
場所　：カメリアホール（東京都江東区亀戸2-19-1　カメリアプラザ3階）
上映作品：日本映画「母　小林多喜二の母の物語」
来場者　：朝の部95名
昼の部118名
夜の部62名
内容　：多くの人にJOCSのことを知ってもらい、新規の支援者を増やすことを目的として映画会を開催した。本編上映前に、2017年度に新たに作成したJOCSのタンザニアでの活動を紹介したDVD「アサンテ サーナ　タンザニアにまかれた種」を上映した。DVD上映後には、朝の部では畑野研太郎会長が、昼と夜の部には森田隆事務局長が、JOCSの保健医療協力活動をご支援くださるよう来場者の方にお願いした。本編終了後、ボランティアの方々と共に、会場出口にて募金の呼びかけを行った。映画会を通じた新規入会者は2名だった。

（8）プレスリリース強化

新聞社、クリスチャン系雑誌に、使用済み切手運動ボランティアの募集やチャリティ映画会開催のお知らせを送付した。使用済み切手運動ボランティアの募集は 2 誌に、チャリティ映画会開催のお知らせは新聞6紙、雑誌2誌に掲載された。関西JOCSのつどいも5月と2018年2月にそれぞれ新聞に掲載された。

そのほか、新たに、株式会社PRTIMESのNGO向けCSR活動として行われているプレスリリース配信サービスの活用を開始した。試験的に以下の配信を行い、事務局内体制の整備、配信後のメディア対応を行った。

リリース日：2017年12月7日
記事名：年賀状の季節。「あっ、間違えちゃった」で国際貢献。「書き損じハガキ収集キャ

ンペーン」開始

（９）オープンサタデイ

平日のボランティア活動参加が難しい方向けに、毎月第４土曜日に関西事務局を開けることに伴い、気軽な勉強会を大阪 JOCS の協力を得て開催した。テーマは幅広く、JOCS に関わりのある医療・福祉・健康・国際協力など、毎回多彩な講師を迎えて行った。その前後に使用済み切手整理や発送等のボランティア活動を行った。（9 月と 12 月は祝日のため開催せず）

（１０）他団体と連携した子どもプログラム

NCC（日本キリスト教協議会）教育部が子どもたちを対象に実施した「キリスト教教育週間・平和のきずな献金 2017」の教材づくりに協力した。まず、NCC の 7 月発行の「ネットワークニュース」51 号にて、カンボジアの SALT プロジェクトの活動内容を紹介した。その後、子ども向けに、カンボジアの子どもの様子と SALT プロジェクトのことを紙芝居形式でまとめた学習資料を作成し、NCC 教育部を通じて各教会への貸出を行った。

（１１）ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター（JANIC）」「関西 NGO 協議会」「障害分野 NGO 連絡会（JANNET）」「カンボジア市民フォーラム」に加入している。JANIC では、2 つのワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」に参加し、情報及び経験の共有をした。また、職員が JANIC の事後評価に協力した。

カンボジア市民フォーラムでは、世話人として運営の一端を担った。JANNET では、担当職員が監事として運営に携わった。

「NGO 非戦ネット」（非戦の平和、共生を目指す NGO の緩やかなネットワーク）の活動に賛同して呼びかけ人を務めている。2017 年度も他の NGO とともに非戦の声を上げた。

[４－４]マーケティング

会員数の年間純減少数が 200 名という状況を改善し、5 ヵ年計画 2013 では退会者数と新規入会者数を均衡させるという目標を立て、また財政強化のために寄付収入を増加することを目指して 2017 年度も活動を進めてきた。そのために広報の方法や会報誌の紙面の工夫、職員による教会訪問での活動報告、ホームページの刷新、広報材料の収集、広報動画の作成、既存支援者との丁寧なコミュニケーション、遺贈パンフレットの作成などを行い、実績を上げた。

（1）会報誌「みんなで生きる」の企画・編集

発行回数：年7回（偶数月10日、11月10日発行）

発行部数：通常号　：6,200部

6・7月号（簡易版）　：13,000部

子ども号　：7,600部

体　裁　：A4版。通常号および子ども号16ページ、6・7月号4ページ

送付先　：会員と年額1万円以上の寄付者等。ただし6・7月号は、年次報告書とともに全支援者に送付した。

特集記事：4・5月号　弓野綾タンザニアワーカーの活動

6・7月号　（簡易版のため特集記事はなし）

8・9月号　現地の保健医療従事者が育っています－ウガンダ－

10・11月号　JOCSの切手運動ボランティア活動を紹介します

子ども号　JOCS活動の報告

12・1月号　JOCSにつながる人たちからのクリスマスメッセージ

2・3月号　SALT（健康教育）プロジェクト　モニタリング報告

その他、会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、協働プロジェクト進捗報告、奨学生紹介、切手部通信、JOCSと私、地区JOCSからの連絡、新入会者報告、国内活動の案内や報告を掲載した。とくに、奨学生や関連団体など現地受益者の声を多く掲載した。

評価活動：毎号、都道府県順に100名の会員を抽出し、往復はがきでアンケートを送付し、毎回30通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。

編集　：編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。

柏木牧子氏（イラスト）、岸川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏

（2）年次報告書

前年度（2016年4月～2017年3月）の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた年次報告書を発行した。受益者や協働プロジェクトに関わる現地の人の声を通じて、JOCSの活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とした。例年通り、会報誌6・7月号と夏期募金趣意書とともに発送した。

発行回数　：年1回（6月10日発行）

発行部数　：13,500部。発送数は11,854部

体裁　：A4版。20ページ

送付先　：全支援者

評価　：アンケートを同封し、275件から回答を得た（回答率2.3%）。9割以上が「読

みやすい」また「関心に応える内容だった」と回答した。特に印象に残った内容としては、「奨学金事業」のページで紹介した、カンボジアの元奨学生の声が多く挙げられた。

（3）ホームページ

ホームページのリニューアルに向けて、各メニューやページの基本構造を見直す協議を重ねた。既存の支援者や潜在的支援者、切手寄付者、潜在的ワーカー志願者などが、求めている情報によりアクセスしやすくなるように、既存のページ構造を見直して整理したのち、制作を依頼するホームページ制作会社も選定した。次年度以降、実際の制作作業を開始する。

2016年度のWebアンケート結果では活動報告の更新頻度を上げることが期待されていることがわかったため、2017年度は海外、国内イベント、協働プロジェクトの進捗状況を速やかに更新するよう努めた。また、FacebookやTwitterなどSNSからもリンクを配信するようにした

（4）JOCSフォーラムの発行

2017年度は、第31号を発行した。内容としては、国際保健医療勉強会での小宅泰郎元バングラデシュ派遣ワーカー(医師)、宮川眞一元バングラデシュ派遣ワーカー（医師)、倉辻忠俊元タンザニア派遣ワーカー（医師）の講演原稿、および山内章子バングラデシュ派遣ワーカー（理学療法士）と岩本直美バングラデシュ派遣ワーカー（看護師）の活動報告書を掲載した。

（5）雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の7月号・1月号に1ページ広告を掲載した。7月号では、カンボジアの奨学生を取り上げ、その生い立ちとJOCS奨学金を得た過程、現在の仕事について紹介した。また1月号では、バングラデシュの山内章子ワーカーと共に活動する女性を取り上げた。2017年度、雑誌広告をきっかけに1名が入会し、複数の新規寄付があった。

（6）会員マーケティング

4月から10月までの半年間「お友だち紹介キャンペーン」を実施し、会報誌送付時のチラシ挟み込み、会報誌への掲載、またホームページでの広報を行った。キャンペーンを通じての新規入会者は3名だった。

事務局スタッフによる教会訪問を強化し、関東圏を中心に13教会において活動報告を実施し、16名の新規入会、12名の新規寄付者を得ることができた。今後も継続的に支援くださっている教会に会員募集の機会を目的とした報告会開催を依頼する。

また2016年度に引き続き、新規で寄付をくださった方々276名に対して、夏期募金冬期募金の趣意書を送る際、入会案内兼銀行自動引落フォームを同封し、1,000円以上の寄付者には手書きのメッセージを添えた。その結果、8名の新規入会を得ることができた。

そのほか、東京、関西で実施したイベントの際の会員募集PRにより13名の新規入会があった。

（7）募金

2017年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2017年度	依頼件数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	11,481件	2,289件	19.9%	21,159,045円
冬期募金	10,927件	5,171件	47.3%	51,155,925円
その他の募金	—	—	—	6,796,191円
国別指定	—	—	—	741,445円
奨学金指定	—	—	—	23,273,000円
海外保健医療協力指定	—	—	—	0円
災害救援指定	—	—	—	0円
海外派遣事業指定	—	—	—	3,050,000円
総計	—	—	—	106,175,606円

（8）遺贈マーケティング

遺贈や相続財産の寄付に関心のある方向けに作成したパンフレットを募金趣意書で案内し、15名の支援者からパンフレット請求があった。また、日本キリスト者医科連盟（JCMA）総会でパンフレットを配布した。職員が遺贈に関するセミナーに参加し、現預金以外の遺贈について相談があった場合の対応を検討した。「公益法人に関するNGO連絡会遺贈分科会」のメンバー7団体で共同セミナー開催を検討していたが、各団体の既存支援者向け広報の優先順位が高いと判断し、開催を見送った。

（9）助成金

Panasonicの「NPOサポート ファンド forアフリカ2017」の助成を受け、以下のことに取り組んだ。

・助成事業タイトル：「共感を呼ぶ動画作成・活用による新規支援者獲得のための広報基盤強化」

・助成金額：87万円

JOCS50周年記念DVD制作にあたりディレクターを務めた株式会社エクリプスの大

宮直明氏からの指導を受け、2016年度に実施した動画撮影の準備とシナリオ作成の企画、タンザニア現地での動画の撮影やインタビューに引き続き、2017年度は、撮影した動画の編集作業に取り組んだ。8月にタンザニアで実施している3事業（ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）の成果を伝える動画「アサンテ サーナ　タンザニアにまかれた種」を完成することができた。完成した動画は10月に実施したチャリティ映画会の本編上映前の活動紹介の一部として来場者に披露した。12月に東京事務局でのタンザニア活動報告会にて、主に既存支援者を対象に上映し、また関西事務局ボランティアさんお疲れ様会でも上映した。12月16日に大阪JOCSクリスマスチャリティコンサートにて、2018年2月24日に関西JOCSのつどい2018にて上映した。
完成した動画は今後も、活動報告や貸出の機会を通じて活用していく予定である。事務局スタッフが、動画作成のための技術的なノウハウを取得し、今後も動画作成を手がけられるようになったことが、助成事業に取り組んだことによって得られた大きな成果である。
なお、完成した動画を既存のマーケティング活動で活用できる見込みのため、2年目の継続助成の申請は行わなかった。

5．運営体制

公益法人として法律で定められている社員総会および理事会を以下のとおり開催した。また、透明性の高い組織運営を行い、専門的見地からの助言を得るため、各種委員会活動を実施した。

[5－1]　第56回定時社員総会

2017年6月10日（土）午後2時から東京都新宿区信濃町教会にて、49名の社員の出席と195通の委任状、21通の書面表決を以って、第56回定時社員総会を開催した。議事に先立ち、梅山猛元インドネシア派遣ワーカーの活動映像の上映、続いて、梁熙梅牧師から説教をいただいた。その後、2016年度事業報告が行われ、議事である2016年度決算報告が承認・決議された。また議案審議の終了後には、2017年度事業計画、収支予算報告について説明がなされた。

[5－2]　理事会

定例理事会は、以下の日程、場所で開催した。

2017年　4月22日　　東京事務局

	6月10日	信濃町教会
	7月29日	東京事務局
	9月30日	東京事務局
	11月18日	東京事務局
2018年	1月20日	東京事務局
	3月17日	東京事務局

2017年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、久保礼子
土居弘幸、名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆

監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

[5－3] 委員会

（1）関西地区活動委員会

委員長：船戸正久　副委員長：彼谷廣子

委　員：宇山進、大谷透、小野勝、加輪上敏彦、久保礼子、島田恒、杉村（諏訪）惠子、中村満子、和田　浩、渋江理香

1）隔月に開催している委員会では、各地区JOCSの活動報告、募金報告、バザー、関西JOCSのつどいに関する協議・反省などを行った。

2）「関西JOCS2017」、「関西JOCS2018」開催のための話し合いを行った。詳細は26頁[4－3]「国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動（6）JOCSのつどい（関西）」を参照のこと。

3）2018年度、関西事務局開所50周年を迎えるにあたって、記念行事を計画している。その準備のための話し合いを始めた。

（2）奨学金委員会

委員長：小宅泰郎　副委員長：柳澤理子

委　員：澤田和美、杉村（諏訪）惠子、細谷たき子、宮崎雅、服部由起、松浦由佳子

1）2017年度奨学生選考

委員会での協議の結果、5ヵ国から申請のあった69名のうち、20名を採用した。採用結果について理事会に答申を行い、全員承認された。支給決定者20名のうちタンザニアの1名は、研修機関の特待生として合格したため、後に奨学生を辞退した。

対象国	2017年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	19	4
ネパール	8	3
バングラデシュ	4	3
ウガンダ	23	4
タンザニア	15	6
合　計	69	20

新たに20名の奨学生が承認された結果、2017年度はインドネシア5名、ネパール12名、バングラデシュ5名、ウガンダ17名、タンザニア14名の合計53名に奨学金の支援を行った。詳細は2017年度奨学生一覧（11～13頁）を参照。

2）奨学金事業協力団体の選定を行い、理事会に答申を行った。奨学金事業協力団体全体の見直し作業は5年ごとに行い、必要があれば、新規追加や見直しは随時行うこととした。

3）奨学金事業実施ガイドラインや承認後の変更手続き手順について、事務局が作成した修正案を協議の上、理事会に答申を行った。

（3）財務委員会

委員長：榛木恵子　副委員長：羽山信輝

委　員：黒川純、飯田多香子、小池宏美

例年と同じ様に、委員長は毎月、委員は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、財政運営が適正に行われていることを確認した。広報費や人件費などの変更に対応するため、補正予算を承認し、理事会に提出して承認を受けた。

年度後半には決算見込みを確認の上、事務局が立案した2018年度予算案を調整し、会長に提出した。

会員や支援者の増強による収入の安定や、3事業（海外派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）の支出バランスについても、大所高所から助言した。

（4）5ヵ年計画2018検討委員会

委員長：大友宣

委　員：平本実、東岡牧、名取智子、森田隆

2017年度で終了する5ヵ年計画2013に続く中期計画を策定するために、5ヵ年計画2018検討委員会が理事会によって設置された。

2017年5月に第1回委員会、8月に第2回委員会が開催され、2018年度からの5年間のビジョンと中期目標が理事会の承認を経て決定した。

2017年12月の第3回委員会は拡大委員会とし、事務局スタッフも加わって開催さ

れ、決定したビジョンと中期目標の下、どのような活動の可能性があるかを協議した。

（5）物語委員会

委員長：畑野研太郎

委　員：植松功、名取智子

諮問内容：物語の種を探す方法を検討する。

2017 年 11 月の理事会において、活動の中で与えられた物語を人々に伝えることがJOCS の使命のひとつであることを確認し、以下のとおり物語委員会を立ち上げることを決定した。2018 年 3 月に第 1 回委員会を開催し、今後のスケジュールを検討した。

[5－4]　事務局

2017 年度は 6 月から勤務を開始した事務局スタッフを含め、東京事務局は 10 名、関西事務局は 2 名の合計 12 名で業務を進めてきた。（事務局スタッフ 1 名は 3 月末で退職）

2017 年度も使用済み切手に関する仕事、その他の事務局の仕事、各種イベントにおいて多くのボランティアの協力を得ることができ、滞りなく業務を実施できた。

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長（10 月～）　森田隆

事務局次長・管理部長・マーケティング部長（～9 月）　名取智子

東京事務局　飯田多香子（6 月~）、河井敦、小池宏美、高橋淳子、服部由起、松浦由佳子、森田真実子（2018 年 3 月～育児休職）、山中信

関西事務局　渋江理香、石野祥子

6．社員会員・一般会員の現状報告

2018年3月31日現在

社員会員	322名
一般会員	3,339名
合　計	3,661名

2017年度中の社員会員、一般会員の異動

1．社員会員

（1）新たに入会された方	11名
（2）一般会員から社員会員になられた方	4名
（3）社員会員を辞し、一般会員となられた方	4名
（4）退会された方	20名

2．一般会員

（1）新たに入会された方	133名
（2）退会された方	479名　※

※個人会員から、教会会員としての団体会員へと登録を変更した方など、268名を含む。

7．2017年度の主な動き

4月

1日　河井敦氏入局

6日　石野祥子氏入局

21日－22日　スタンプショウに出展（都立産業貿易センター台東館）

22日　オープンサタデイ（関西事務局）

25日－5月15日　原田真帆氏、ケニア短期派遣

5月

13日　関西JOCSバザー（大阪聖パウロ教会）

13日－20日　松浦由佳子職員、ケニア出張

20日　関西JOCSのつどい2017（神港教会）

27日　オープンサタデイ（関西事務局）

6月

1日　飯田多香子氏入局

10日　第55回定時社員総会（東京　信濃町教会）
24日　オープンサタデイ（関西事務局）
26日－7月2日　松浦由佳子職員、河井敦職員、協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張

7月
7日　大阪JOCSカフェ（大阪聖パウロ教会）
21日　国際保健医療勉強会（キリスト教会館会議室）
22日　オープンサタデイ（関西事務局）
27日　国際保健医療勉強会（関西事務局）
28日　京都JOCSチャリティコンサート（京都府民ホールアルティ）

8月
25日－27日　キリスト者医科連盟総会JOCSの夕べ
26日　オープンサタデイ（関西事務局）

9月
9日－17日　タンザニアスタディツアー
30日－10月1日　グローバルフェスタJAPAN2017に出展
（お台場・センタープロムナード公園）

10月
3日－11日　森田隆事務局長、新規プロジェクト形成調査のためタンザニア出張
4日　国際保健医療協力フィールドセミナー（台東区清川・日本堤・東浅草周辺）
11日－19日　服部由起職員、奨学生モニタリングのためインドネシア出張
13日　国際保健医療勉強会（キリスト教会館会議室）
20日　チャリティ映画会「母」（カメリアホール）
21日－22日　スタンプショウこうち2017に出展（イオンモール高知）
23日－31日　森田隆事務局長、松浦由佳子職員、協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張
28日　オープンサタデイ（関西事務局）

11月
10日－19日　服部由起職員、奨学生モニタリングのためネパール出張
18日　神戸JOCSのつどい（兵庫松本通教会）
25日　オープンサタデイ（関西事務局）
26日　四国高知JOCSのつどい（高知教会）

12月

5日　関西事務局切手ボランティアお疲れ様会（関西事務局）

9日　足利市民クリスマス（足利市民プラザ）

12日　タンザニア活動10周年　活動報告&DVD完成お披露目会
（キリスト教会館会議室）

22日　関西事務局切手ボランティアクリスマス会（関西事務局）

1月

17日　東京事務局ボランティア交流会（キリスト教会館会議室）

19日　国際保健医療勉強会（キリスト教会館会議室）

23日－2月5日　松浦由佳子職員、ワーカーレビューのためバングラデシュ出張

27日　オープンサタデイ（関西事務局）

28日－2月11日　森田隆事務局長、ワーカーレビューのためバングラデシュ、協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張

2月

3日－4日　ワン・ワールド・フェスティバルに出展
（カンテレ扇町スクエア・北区民センター・扇町公園）

24日　関西JOCSのつどい（カトリックセンターサクラファミリア）

24日－3月4日　大友宣常務理事、森田隆事務局長、服部由起職員、ワーカーレビューのためタンザニア出張

3月

9日　国際保健医療勉強会（キリスト教会館会議室）

11日－30日　山内章子ワーカー、ケニア出張

19日　内閣府立入検査

20日－28日　松浦由佳子職員、協働プロジェクトモニタリングのためケニア出張

22日　弓野綾ワーカー帰国

24日　オープンサタデイ（関西事務局）

31日　山中信職員退職